２０２６年１１月２５日
防衛省

日シンガポール防衛相会談　共同プレスステートメント

１．令和８年１１月２５日、東京において、日本の小泉防衛大臣とシンガポールのチャン国防大臣は、地域情勢と日シンガポールの防衛協力について、議論を行った。

２．両閣僚は、チャン大臣の就任後初の訪日及び両国の外交関係樹立 60 周年の機会に、本年３月に格上げされた両国の「戦略的パートナーシップ」の下、安全保障・防衛分野における両国の協力が着実に進展していることを歓迎した。両閣僚は、両国の防衛当局間の連携強化に向け、高い頻度で防衛相会談を実施し議論を深めるとともに、緊密な意思疎通を行ってきた。また、日本の自衛隊及びシンガポール国軍のハイレベルにおいても活発な交流が行われており、本年８月には日本の統合幕僚長による就任後初のシンガポール訪問及びシンガポール海軍司令官による日本への実務訪問が実現したことに加え、シンガポール国軍司令官による就任後初の訪日が予定されていることを歓迎した。

３．そして、両閣僚は、会談において、日シンガポール防衛当局間の協力を更に強化し、同志国として地域及び国際社会の課題に共に取り組むという強いコミットメントを改めて確認した。小泉大臣からは、現在日本が取り組んでいる国家安全保障戦略等の三文書の改定も含め、我が国の防衛政策について説明した。

４．両閣僚は、世界及び地域の安全保障環境がますます複雑化する中で、海洋安全保障を含む地域の平和と安定について共通の利益を有することを確認した。また、両閣僚は、開かれた海上交通路が両国にとって極めて重要であることを確認した。その上で、両国の知見及び技術を結集し、共通の課題について重点的に取り組み、協力の強化を加速することで一致した。

５．両閣僚は、海軍種間の協力を一層強化するとともに、情報共有及び連携を促進し、海洋の安全と安定に資する取組を促進していくことを確認した。本年初めて実現した海上自衛隊とシンガポール海軍の共同訓練「ＳＩＮＧＡＰＡＮ」を継続的に実施することで一致し、潜水艦救難訓練の実施に向けた検討を進

めることで一致した。

６．両閣僚は、シンガポールを拠点とするＡＳＥＡＮ ＣＢＲ防衛専門家ネットワークと防衛省の間で積み重ねてきた協力を基盤として、本年１２月にシンガポールにおいて初の日ＡＳＥＡＮ共催 ＴＴＸ（机上訓練）を実施すること、また、ＣＢＲＮ分野において陸上自衛隊とシンガポール陸軍との専門家交流を実施することを歓迎した。さらに、チャン大臣は、日本の陸上自衛隊の特殊部隊がシンガポールの次世代市街地訓練施設（SAFTI City）を訪問することを提案し、両閣僚は、早期に訪問を実現させることで一致した。

７．また、両閣僚は、両国の部隊が人的リソースに関して共通の課題を抱えていることを踏まえ、シンガポール空軍の「スマート・エアベース構想」の下での取り組みを含め、幅広く技術の活用を通じ、省人化・無人化を進展させる方策について協力することが有益であるとの認識を共有した。

８．さらに、両閣僚は、２０２３年の「防衛装備品・技術移転協定」の署名以降、防衛装備・技術協力が進展していることを歓迎した。また、来年４月に予定されているDSEI Japan 2027の機会を捉え、第２回「日シンガポール防衛インダストリーデー」を開催することで一致した。こうした機会も捉えて、防衛装備・技術協力について両国で更に議論を深めることを確認した。

９．両閣僚は、ＡＤＭＭプラスの枠組みでの日ＡＳＥＡＮ協力が、地域の平和と安定のため重要な役割を担っていることを確認するとともに、シンガポールが、現在ＡＳＥＡＮの対日調整国を務めていることを踏まえ、日本とＡＳＥＡＮの強固な協力関係を引き続き後押ししていく方策について議論した。チャン大臣は、日本が地域の平和と安全のために建設的な役割を果たすことへの期待を改めて表明し、小泉大臣は、シンガポールが来年ＡＳＥＡＮ議長国となることも念頭に、ＡＤＭＭ及びＡＤＭＭプラスが地域の平和と安定のために果たす役割は大きく、日本として最大限の支援を続けていく意図を表明した。その上で、両閣僚は、共通の安全保障上の課題に対処するため、他のＡＤＭＭ及びＡＤＭＭプラス参加国とともに、ＡＤＭＭプラス専門家会合（ＥＷＧ）の更なる発展に向けた議論を進めることを含め、来年のＡＤＭＭプラスの成功に向けて緊密に協力していくことを確認した。